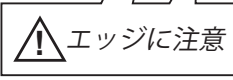
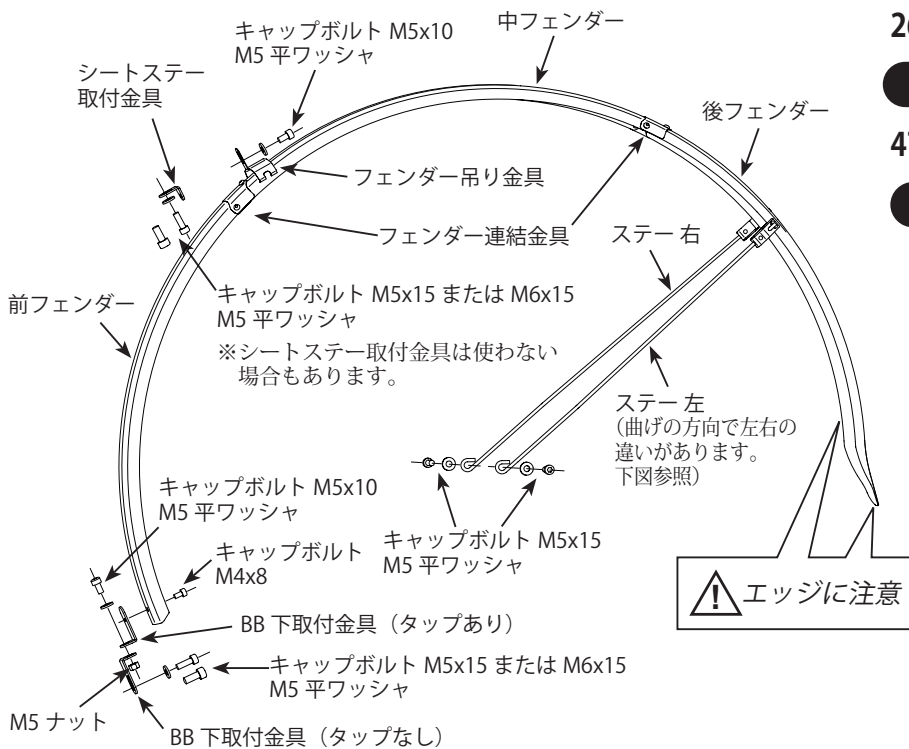


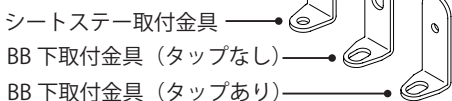
リア用

「OODACHI / 大太刀」は、DYKシリーズのロングサイズ版として開発された自転車用フルサイズフェンダー（泥除け）です。後輪をすっぽりと覆う泥除け効果の高い形状です。一般的なフェンダーは再資源化が難しい樹脂素材でできたものが多い中で、DYKシリーズはリサイクルが容易な素材のみを使用した環境にやさしいモデルです。

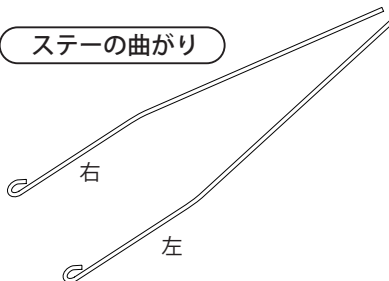
部品明細



金具の種類



ステーの曲がり



適合ホイールサイズ

26 ~ 28 インチ または 650c ~ 700c

フェンダー幅

47 ミリ (適合タイヤ幅は 45 ミリまで)

内容一覧

<本体側>

前・中フェンダー	...	2
後フェンダー	...	1
ステー (右・左)	...	各 1
フェンダー止めベース・受け板・ホーロー セットボルト M4x3	...	各 2
キャップボルト M4x8	...	2

<袋部品 1>

フェンダー連結金具	...	2
フェンダー吊り金具	...	1
ずれ止めゴム板	...	1
シートステー取付金具	...	1
BB 下取付金具 (タップあり・なし)	各	1
キャップボルト M4x8	...	1
キャップボルト M5x10	...	2
キャップボルト M5x15	...	4
キャップボルト M6x15	...	2
M5 平ワッシャ	...	6
M5 ナット	...	1

<袋部品 2>

2 ミリ六角レンチ (M4 ホーロー用)	
3 ミリ六角レンチ (M4 キャップボルト用)	
4 ミリ六角レンチ (M5 キャップボルト用)	

装着および使用上の注意

- 本商品は回転する車輪のすぐ近くに装着する部品となりますので、正しい装着がされていないと、走行中に車輪に巻き込んだりして大変危険です。
またフレームやシートステーの形状、リアブリッジの有無、ブレーキの種類等により本商品が装着できない場合もあります。そのため装着は自転車に関する整備上の一般的な知識および技能を有する方（販売店や整備業者）に依頼してください。それ以外の方が装着を行なった場合の不具合や被った損害等については弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご承知おきください。
- 走行前には必ず、本商品が確実に固定されていることを確認してください。
- 本商品が車体や乗り手（特に足）、キャリアに搭載した荷物等に当たらないことを確認してください。
- 走行中に無造作に搭載したバッグ等が当たったりフェンダーが足などで押されたりすると、フェンダーが変形し意図せず車輪に巻き込まれたりするので危険です。
- ステーの長さを調節するため先端をカットする際は適切な工具を使用して行ってください。材質はステンレスですのでニッパーやペンチでは切れません。クリッパーの使用をお勧めします。
- 先端は切りっぱなしでは尖っていて非常に危険ですので、必ず削って安全に丸めてください。
作業は平ヤスリでは材質的に困難なので、ステー単体にしてグラインダーを使用することをお勧めします。
- 使用中にもし異常を感じた場合はすぐに使用を中止して、装着を行なった整備士にご相談ください。

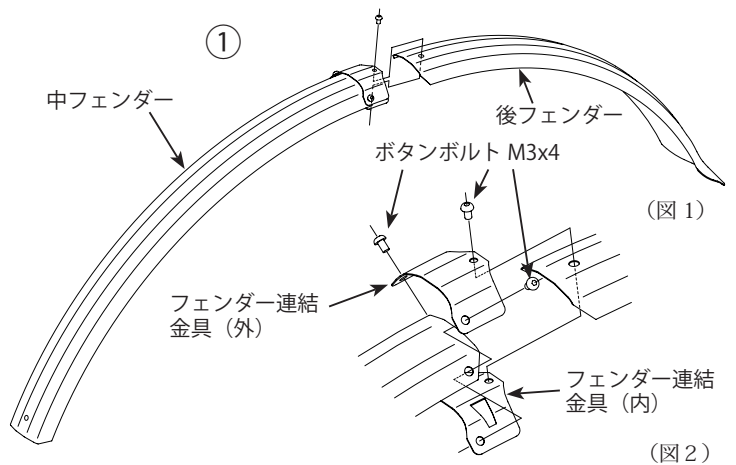
組立と準備

フェンダー本体にはリップの付いている後ろ用が1枚と付いていないものが2枚あり、2枚同じものはつないで前用と中用とに使います。

① まず最初に中フェンダーと後フェンダーとを連結します。

中フェンダーとフェンダー連結金具とはあらかじめ仮組みしてあります。中フェンダーの両脇を止めているボタンボルトを緩め、さらに中央のボルトは抜きます(図1)。できた隙間に後フェンダーを挿し込み、外したボルトを締め込んで後フェンダーを保持します(図2参照)。

② 続いて組み立てたフェンダーに前フェンダーをさらに連結します。

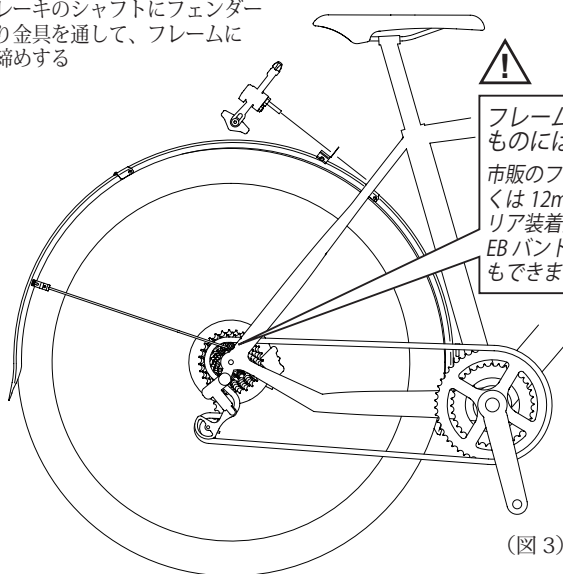


装着方法

装着方法には2パターンあります。ご自身の自転車のタイプに適合する方法で装着してください。

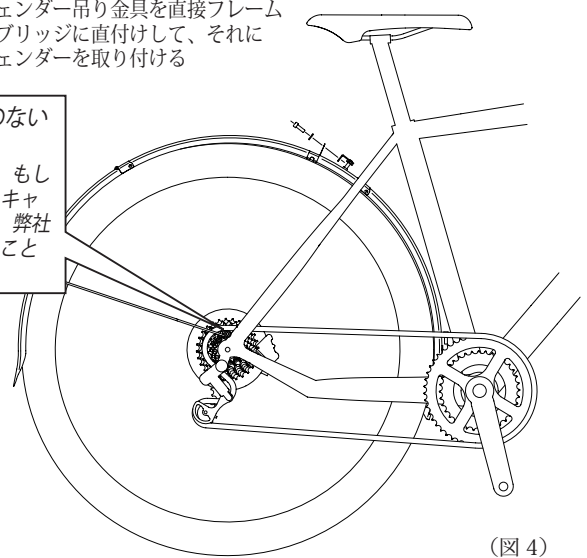
【キャリパブレーキに共締めする方法】

ブレーキのシャフトにフェンダー吊り金具を通して、フレームに共締めする



【フレームブリッジに直付けする方法 (ディスクブレーキ車)】

フェンダー吊り金具を直接フレームのブリッジに直付けして、それにフェンダーを取り付ける



⚠
フレームエンド部にダボ孔のないものには装着できません。
市販のフレーム装着型追加ダボ、もしくは12mmスルーアクスルならキャリア装着用ねじ孔付きアクスル、弊社EBバンドなどを使って装着することもできます。

取り付け方法

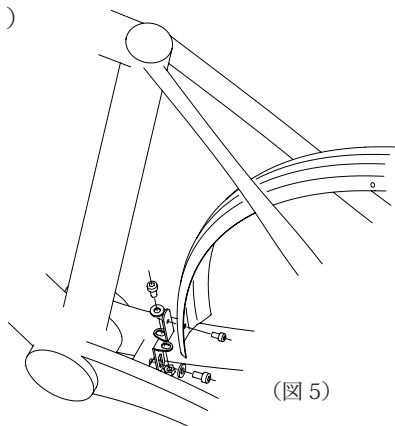
① 【キャリパブレーキ・フレームブリッジ共通】

まず作業がしやすいよう後輪はあらかじめ取り外しておきます。

続いてフェンダーの先端をBB背後にあるブリッジパイプにあいている孔に止めていきますが、その孔の位置が上面か背面かで取り付け方が次のように異なってきます。

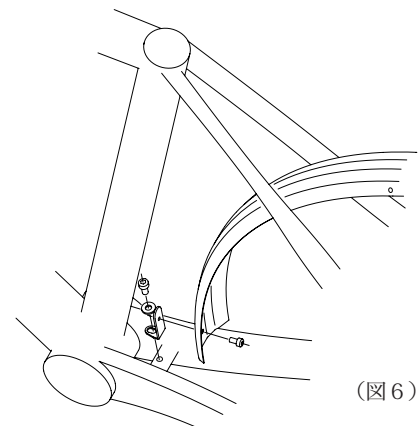
② 【ブリッジの背面の孔に取り付ける場合】

前フェンダー先端の孔にBB下取付金具(タップあり)を取り付け、さらにそれにBB下取付金具(タップなし)をつないで、それでブリッジの孔にボルト止めします。(図5・7)

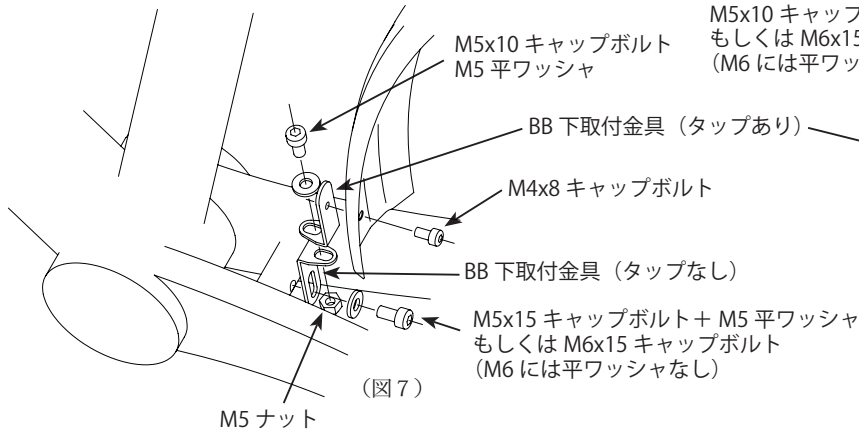


【ブリッジの上面の孔に取り付ける場合】

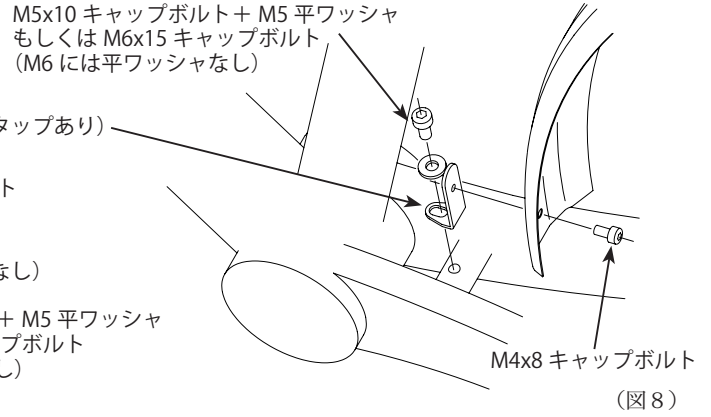
前フェンダー先端の孔にBB下取付金具(タップあり)を取り付け、それをそのままブリッジの孔にボルト止めします(図6・8)。タップなし金具は使いません。



【ブリッジの背面の孔に取り付ける場合】



【ブリッジの上面の孔に取り付ける場合】



いずれの場合も、もし付属のボルトでは止められずブリッジパイプを貫通する長さのボルトが必要な場合は、そのボルトと固定用のナットはご自身でご用意ください。

【キャリパブレーキに共締めする方法】

- ③ いったんリアのキャリパブレーキを取り外します。
- ④ キャリパブレーキのピボットシャフトにフェンダー吊り金具を通し、キャリパブレーキをもう一度装着します。ブレーキアームの動きが金具で阻害されないことを確認してください (図3)。

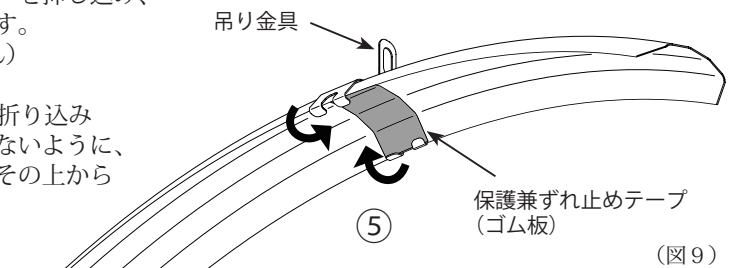
【フレームブリッジに直付けする方法】

- ③ フェンダー吊り金具をシートステー上部のリアブリッジの孔にキャップボルト M5x10 + 平ワッシャで止めます。
- ④ ブリッジの孔が下を向いているときは、シートステー取付金具を先にキャップボルト M5x15 または M6x15 で取り付け (前ページ参照)、それにフェンダー吊り金具を取り付けるというダブル構造にします (図4)。

【以下、キャリパブレーキ・フレームブリッジとも共通】

- ⑤ 車体に取り付けてあるフェンダー吊り金具の下からフェンダーを挿し込み、フェンダーの全体的な位置を把握しつつこの位置で保持します。(前端の位置が決まっているので、動かすことはできません)

吊り金具はフェンダーにあてがったあと 4 か所の爪を内側に折り込みフェンダーを保持します。このあと吊り金具がずれてしまわないように、フェンダーの裏側には付属のずれ止め用ゴム板を貼り、爪はその上から折り込まれて保持するようにします (図9)。



フェンダーやベースは決してタイヤと接触させないように位置決めてください。フェンダーが走行中に車輪に巻き付くと、急制動がかかったようになり転倒してしまうなど大変危険です。



吊り金具の爪を曲げるには、先端に傷防止用のテープなどを貼ったプライヤなどを使うといいでしょう。



フェンダーは磨いた金属製で傷つきやすいため、ぶつかけたり擦ったりして傷つけたりさせないようにご注意ください。

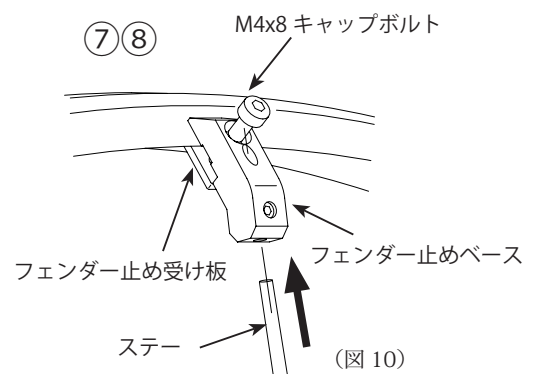
- ⑥ 最後にフェンダー後端部分が走行中の振動でぶれてタイヤに接触してしまわないようにステーで保持します。後輪を装着します。まずステーの丸くなった側の端を後輪ハブ軸付近にあるダボに、キャップボルト M5x15 と平ワッシャで仮止めします (図3)。

- ⑦ ステーを後方に出しフェンダーに止めるため、後フェンダーの中央あたりの縁をフェンダー止めベースとフェンダー止め受け板とで挟み込んでから、キャップボルト M4x8 を締めて保持します (図10)。

- ⑧ 仮止めたステーをいったん外し、直線端の方をフェンダー止めベースの下側の孔から挿し込んでから、もう一度ステーをダボに止めます (図10)。

- ⑨ フェンダーとタイヤとの間隔は吊り金具の高さとステーの長さ調整次第で狭くも広くもできます。フェンダーがタイヤと全域に渡ってほぼ均一になるように調整します。

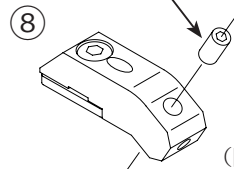
長さが決まったら、ホーローセットボルト M4x3 を締めてステーを横から押すようにして保持させます (図11)。



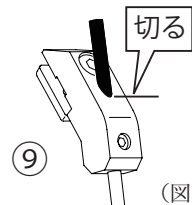
- ⑩ このときステア先端がフェンダー止め金具から飛び出していると危険なので、先端はできるだけ短くカットします (図 12)。少なくとも M4x8 キャップボルトを回すのに邪魔にならない程度の長さにし、カットラインを油性ペンなどでマークします。

ステアを装着したままだと作業が困難なため、いったんステアだけを抜き、カットと研磨をしたあと再び戻すのがいいでしょう。

ホーローセットボルト M4x3



(図 11)



(図 12)



フェンダーやベースは決してタイヤと接触させないように位置決めしてください。フェンダーが走行中に車輪に巻き付くと急制動がかかったことになり転倒してしまうなど非常に危険になります。



カットしただけでは先端が尖っていて危険ですので、安全のため削って滑らかにします。ただし材質 (ステンレス) 的にやすりでは難しいので、グラインダーの使用をお勧めします。

- ⑪ 最後に、仮締めしてあるねじをすべてしっかりと締め込んで完了です。

